河江っ子に育みたい資質・能力（解説編）

Agency（エージェンシー）とは？

新しい学習指導要領のキーワードの１つに「育成したい資質・能力の明確化」があります。子どもたちがよりよい社会や幸福な人生を切り拓くために必要な資質・能力を、各学校の実態に応じて示すことが求められています。

そこで、本校ではOECDが示した「Education 2030」（HP参照）をベースに、「エージェンシー」という資質・能力を設定しました。「エージェンシー」とは、「自ら考え主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会へと責任をもって変革していく力」のことです。これからの時代は、自分の幸せだけでなく、友人や家族、地域や地球全体のウェルビーング（＝身体的・精神的・社会的に良好な状態）を考えることが重要となってきます。また、貧富の格差の拡大、紛争の増大と難民の増加、環境汚染と気候変動などの問題を解決しなければ、今の社会は持続不可能となってしまいます。そうならないためにも、困難を乗り越え、持続可能な社会へと変革する力が求められているのです。

それゆえ、この「エージェンシー」こそ、世界が大きく変わると言われる2030年の時代を生きる子どもたちに必要不可欠な資質・能力だと考えています。まだ、ほとんどなじみのない言葉ですが、河江の子どもたちには「世界の最先端の教育」を経験してもらい、グローバル化社会に対応できる大人に育ってほしいと願っています。

「対立やジレンマを克服する力」とは？

価値観が多様化する現代社会では、単一的な「正解」というものがなくなりつつあります。たとえば、量子コンピュータという桁違いの能力を持つコンピュータの開発が進んでおり、医療や科学の分野で大きな進展をもたらすと言われている一方で、その能力の高さゆえに、銀行預金のパスワードなどを瞬時に解読することができ、悪用される可能性も指摘されています。このように、科学の進展と倫理の問題などそれぞれの立場や主張が複雑に絡み合い、いろいろな分野で対立やジレンマが生じています。だからこそ、これからの時代を生きる子どもたちには、そのような相容れない現状でも、相互のつながりや関連性を考慮しながら、より統合的な形で思考し、行動していくことが求められています。そうした意味でも学校の授業や家庭学習で、簡単には答えが出ないような課題に対し粘り強く取り組む意欲や態度が重要視されているのです。つまり、正解が決まっている「与えられた問題」を速く正確に回答する教育だけでは不十分であり、対立やジレンマを克服しながら少しずつ前に進んでいくような教育の在り方を考えなければならない時期に来ているということです。同時に、失敗や挫折の経験を生かして簡単にはあきらめない「折れない心（＝レジリエンス）」を育成することも、小学生の頃から取り組んでいきたいと考えています。

「新たな価値を創造する力」とは？

日本は資源が豊富な国ではありません。そのため、一昔前の「加工貿易」のように、資源に付加価値を付けて社会を繁栄させる必要があります。日本が今後もよりよい社会となるためには、「イノベーション（変革）を引き起こす力」が必要不可欠なのです。そのためには、孤軍奮闘するのではなく、他者との協働で新しい知識や技術を生み出すことが求められています。そこで重要視されるのが、社会の変化への適応力、新たな発想を生み出す創造力、ちょっとしたことへの好奇心といった「新しいものに対する開かれた意識」と言われています。

ここで注意しなければならないのが「協働」と「共同」の違いです。共同は、同質・同調性が原則であり、個々の主張よりも組織メンバー全員の協調や忖度が重視されます。共同ありきで画一的、個性や自律性が低く、横並び意識が強い。これが日本人の特性かもしれません。高度成長期にはこれだけでもよかったのですが、これからのグローバル化社会では通用しなくなることは間違いないでしょう。

だからこそ、異質な他者と協働して「新たな価値を創造する力」を小学生のうちから育てていきたいと思っています。

「責任ある行動を取る力」とは？

最近「SDGs」という言葉をよく見かけませんか。これは、「Sustainable Development Goals」の略語で、国連が掲げた「持続可能な開発目標」のことです。温暖化や環境汚染などの地球規模の問題が深刻化する中、各国が自国の利益だけを優先して開発を行うことを見直し、持続可能な社会をみんなで創りあげていこうという考え方です。しかしながら、地球規模の課題は、誰かが一朝一夕に解決してくれるわけではなく、私たち一人一人が考えて行動し、多様な人と力を合わせなければ解決できないものです。そのために必要となるのが、「責任ある行動を取る力」です。たとえば、レジ袋をもらわずエコバックを使ったり、商品棚で賞味期限が近い品物から買ったりすることに自分から率先して取り組むことが求められているのです。同時にそれは、自分が今何をすべきなのかということを振り返り、自分で自分の行動を律することができる「自己調整力」にもつながります。

これからの未来を生きる子どもたちは、「地球市民」という意識をもつことが大切です。自分の行動に責任を持ち、持続可能な社会をつくる。これは、私たち大人が率先して行うべきことでもあります。子どもたちは、大人の背中を見て育ちます。まずは、私たち自身が大人として責任ある行動ができるように努めていきましょう。